

日本とパナマの架け橋となるグローバル人材の育成

～タブレットPCを交流学習に活用して～

日本人学校 国際理解 交流

パナマ日本人学校

CALLE ANASTASIO RUIZ URB. MARBELLA BELLA VISTA
CIUDAD DE PANAMA PROVINCIA DE PANAMA ESTE REPUBLICA DE PANAMA

<http://panama.lolipop.jp/>

1. 研究の背景

本校は、将来日本とパナマの架け橋となる人材を育てたいと考え、現地及び他国の在外教育施設と積極的な交流を継続して行っている。とりわけ現地エピスコパル校との交流は、42年目を迎える本校創立以前の補習校時に歴史が遡る。

一方、他国の在外教育施設（コスタリカ・サンホセ日本人学校）とは、小規模校同士で交流を2年前から始めた。日本・パナマ・コスタリカそれぞれの国のよいところや学校のよさを互いに伝え合う活動を通して、子どもたちの中に世界の人々すべてと「共に生きる」という考え方、ものの見方を育みたいと考えたからである。

また、ICTの技術革新が絶え間なく起きる現代社会においては、子どもたちがICTの活用能力を学齢期より身に付けることが大切であると思う。ICT機器を情報の収集だけでなくコミュニケーションを図る一つの手段として活用する技能を身につけられるようにしたいと考えた。

2. 研究の目的

異国の文化や自然環境、生活習慣などを積極的に調べ、その国の良さを発見し、日本と比べて、自分なりの考えをもつ子どもを育てるための国際交流学習のあり方を明らかにする。『パナマ新聞をつくろう』というテーマを設定し、取材や編集、発表の機会を通し、現地や隣国の児童生徒との交流方法やICT活用の有効性を明らかにする。

3. 研究の経過

時期	取り組み内容	評価のための記録
4～7月 消防署 警察署 浄水場 地下鉄	<p>「パナマの特色を見つけよう」【取材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パナマの自然や社会やその特色について現場で取材し、「パナマ新聞」の題材を集めるとともにパナマの自然や社会の特色について理解を深める。 ・タブレット PC やインターネット操作に習熟できるようにする。 	<p>学習の記録</p> <p>取材メモ</p>

8～9月	「パナマ新聞をまとめよう!」【編集】 ・取材した写真やメモを「パナマ新聞」に編集する。 ・取材や編集にICT機器を活用する。	学習の記録 パナマ新聞
9月20日	「パナマ新聞を発表しよう!」【発表】 ・「パナマ日本人学校学習発表会」を実施し、学習の成果を保護者や地域の日本人に向けて発表する ・発表にICT機器を活用する。	発表の記録
10月 スペイン語版 編集 11月9日 COLEGIO EPISCOPAL と交流	「パナマと日本のよさを話し合おう!」 【交流校児童との交流】 ・「日本語版パナマ新聞」をもとに「スペイン語版パナマ新聞」をつくる。 ・現地交流校の児童生徒に発表し、感想や気付いたことなどについて話し合う。 ・「スペイン語版パナマ新聞」作りや現地校との交流や発表にICT機器を活用する。	学習の記録 スペイン語版パナマ新聞 交流校児童の様子
6月 自己紹介 学校紹介 11月 学習発表	「お互いの国のよさを知ろう!」 【スカイプを使った交流】 ・コスタリカのサンホセ日本人学校の児童と、スカイプを使い、お互いの生活の様子や学習の成果を話し合う。海外で学ぶ日本人同士で、継続的に意見を交流し合う。	学習の記録

4. 代表的な実践（抽出学年 4学年女子2名）

(1) 取材について

6月、本校がある地区を管轄するリカルドアラngo消防署とベジャビスタ警察署を訪問した。インタビューを行い、次のようなことを取材した。

① 「リカルドアラngo消防署」での取材記録

- ・ 火事の発見者が103番に電話をかけると、はじめに中央管理センターにつながる。そこから一番近い地区(管轄地区)の消防署へ連絡が入り、1グループ6人で現場に向かう。大火事などの場合には、他の地域の消防署に応援を依頼し、協力しながら活動している。
- ・ 1日の勤務時間は、24時間(その後、2日の休みをとる)。午後1時頃～3時頃、大部屋で仮眠の時間をとる場合もある。
- ・ 消防車はいつでも出動できるように待機している。ビルの5階～7階くらいまで届くはしご車もある。消火や救助のための道具や消火剤も積まれており、消火剤を散布する機械も積んであった。



- ・ 消防士は、町や大きなビルに設置されている消火栓が、どの位置にあるかが全部わかる。

児童は、教科書で学習した日本の施設と似ていること、違っていることを知ることができた。また、パナマ人の消防士の皆さんが、市民のために一生懸命に訓練したり働いたりしていることが分かった。



② 「ベジャビスタ警察署」での取材記録

- ・ 日本人学校のあるベジャビスタ地区を6つの地域に分け、警官を配置している。そのため、2分以内にどこの事件・事故にもかけつけることができる。現場には必ず2名以上で行く。いつも、防護服を着用し、銃・手錠・催涙ガス・トランシーバー・懐中電灯持っている。
- ・ 事故発見者の「104」番通報は、全て通信指令室が受け、そこから担当地区の警察署へ連絡を入れる。
- ・ 安全なまちづくりに一番大切なことは、事件が起きないようにすること。そのために、車・バイク・自転車で日々パトロールをしている。また、事件の未然防止のため、広報活動も積極的に行っている。



児童は、拳銃保管庫などを見せてもらい、少し驚いていたが、よく取材ができた。また、街の治安を守るパトロールや広報活動の大切さも学んだ。一生懸命にメモを取り、たくさんの情報を得ることができたが、多くの情報から必要な情報を選ぶことの難しさも感じていた。また、この他にも浄水場と地下鉄も同様に取材活動を行った。



(2) ICT 機器の活用について

WiFi が設置されたことで、教室でいつでもインターネットを活用できるようになった。児童はタブレット PC を用いて、様々なことを自ら調べようとする意欲と、Web サイト等から様々な情報を引き出す技能が高まった。



(3) 編集（新聞作成）について

「パナマの暮らし新聞」を作るという目標に向けて、消防署・警察署・浄水場・地下鉄で、子どもたちが自ら行ったインタビューや撮影した写真を記事にした。記事作りでは、何をどのように伝えるかを決めることが難しいと感じていた。その後、タブレット PC を用いて写真の選択や記事の割り付け、入力を行った。PC の画面を見せ合い話し合いながら学習を進めることができた。取材した情報を記事としてまとめることで ICT 機器を活用する力も高めることができた。

(4) 発表（学習発表会でのプレゼンテーション）について

パナマ日本人学校学習発表会で、完成した「パナマ新聞（パナマくらし新聞）」を発表した。ただ記事を読み上げるだけではなく、伝えるための工夫として小劇やクイズを取り入れたりした。

参観者からは、「集めた情報だけでなく“生”レポートが素晴らしかった。」「子どもたちの発表を通して、パナマについて教えてもらった。」「自宅でも ICT を使って調べ学習をする力が身に着いた。」「発表内容がとてもわかりやすかった。」等の感想や意見をいただいた。ICT を活用した発表の力は、確実に向上したと感ずることができた。



(5) パナマ現地校児童との交流について

パナマ日本人学校学習発表会の後、消防署と浄水場の記事を ICT 機器の翻訳機能等を使ってスペイン語にし、「スペイン語版パナマくらし新聞」を作成した。スペイン語版の完成後、交流校に新聞を送付し、あらかじめ読んでもらうようにした。

「スペイン語版パナマくらし新聞」の発表は、1つのタブレット PC を日本人とパナマ人が一緒に囲見ながら行った。「この新聞には間違っているところがありますか？」「水道水を飲むのは水道水ですか、ミネラルウォーターですか？」「消火活動を見たことがありますか？」「火災時の電話連絡先を知っていますか？」「水を大切に使っていますか？」などを質問し、答えてもらった。

なんとなく分かったつもりになっていた日本とパナマの生活ではあったが、「パナマの消防の仕事の大変さがわかった。」「火事の時、消防署にかける電話番号は知っているが、消火活動をしているところを見たことがない。」「水道水を飲んでいる家庭も多い。」などの具体的なことを、交流校のパナマ人児童から聞いたり、これらのことを話し合ったりすることで、お互いの国に対する興味や調べてみたいという意欲を高めることができた。

また、お互いの学校で使っている教科書を紹介しあい、教科書を通してお互いの学習の様子を話し合うことも行ってみた。日本の子どもたちからは、「パナマの教科書はページ数が多く、文字が多い。」パナマの子どもたちからは「日本の教科書は、写真が多い。」「日本とパナマの勉強には違いがあることがわかった。」などの感想が発表された。

(6) 学習による行動の変容について

パナマや隣国コスタリカの生活習慣・環境について知ることによって、自分たちの生活を見直し改善しようと意識が生まれた。例えば、パナマでは、ゴミの分別収集が徹底されておらず、ゴミに対する問題意識が低いことが学習を通して



分かったため、これまで収集してきたアルミ缶回収に加え、新たにガラスビンとペットボトルの分別収集を始めることにした。また、毎週火曜日には、全校児童で缶つぶしを行う活動も始めた。学習したことを、自分たちの生活改善に結び付けることができた。

5. 研究の成果

「パナマ新聞をつくる」という具体的な目標と「現地の交流校に発表する」というゴールを設定したことや、取材や編集、発表の機会を通し、パナマの人々や自然環境・生活習慣と直接ふれあい自分の体験をもとに考えを深めたことにより、パナマと日本の違うところや同じようによいところなどを発見することができた。

また、ICTを活用した学習形態を工夫することで、言葉の違う交流校の児童と関わり合うことができた。

(1) ICT 機器を活用した取材活動の成果

校内に WiFi の環境が整ったことで、教室でのスカイプ交流が可能になったり、コンピュータを使った調べ学習ができるようになったり、説明に映像を提示したりすることができるようになった。無線 LAN 整備前に比べ、情報機器を利用した学習の機会が増え、児童もその利点を実感し、自分の学習に活用しようという意欲を高めることができた。タブレット PC やデジタルカメラを使用した「パナマ新聞」取材活動では、手軽にたくさんの情報を教室に持ち帰ることができるため、校外学習の振り返りが簡単にできた。校外学習では見落としていたり気付いていたりしていなかったことを、事後の学習で、新たに発見できるなどのメリットがあった。

(2) ICT 機器を活用した記事の編集や発表での成果

パナマ新聞の編集や発表の学習を通して、自分たちがくらすパナマの今を、子どもたちなりにとらえることができた。自分たちが調べたことをたくさんの人に聞いてもらうことやそれに対する感想を聞いたり反応を感じたりすることで、子どもたちは自分たちの学習に対する自信を深めることができた。また、中学年以上では、視覚に訴える ICT 機器の良さを実感するとともに、ICT 機器の使用スキルも向上させることができた。

(3) ICT 機器を活用した現地校交流での成果と課題

現地の児童との交流に向け、パナマ新聞をもとに伝えたい内容を再構成し、ICT 機器を活用しながら資料作りをした。分からない表現や単語調べに ICT 機器はとても便利であったが、「本当にこの表現でよいのか」など、翻訳ソフトだけでは、表現の正確さになかなか確信がもてないものだと感じていた。

ICT 機器を使った視覚に訴える発表は、お互い言葉がよくわからない者同士の交流にはとても有効であった。視覚重視にすることで、自分たちの発表をよく理解してもらうことができた。その結果、こちらの発表に対する感想や意見をパナマ人の児童から聞いたりそれに対する答えを伝えたりしやすくなったと思う。また、ICT の活用とともに、パナマ人児童との交流が上手くいった要因は、「楽しい」「明るい」コミュニケーションの力であると感じた。これまで積み重ねてきた合計 4~8 回の交流の経験をばねに、積極的に、明るく、自信をもってコミュニケーションをとる児童の姿が様々な場面で見られるようになった。現地語や英語の力、ICT 機器活用の力とともに、明るく・楽しく・自信をもってコミュニケーションをするメンタルの力は、とても大切だと思う。グローバル人材を育成するという目標に迫るためには、言語力、ICT 活用力、メンタル力のどれかではなく、どの力も等しく伸ばし

ていくことが重要であると実践を通して感じた。

6. 今後の課題・展望

様々な場面でパナマの人たちと関わる機会を多くすることで、外国人とコミュニケーションすることへの心理的なハードルは下がることが分かったが、言葉の壁は依然高く、なかなか自由にコミュニケーションできるというわけにはいかない。より質の高いコミュニケーションができるように、これからもICT機器の活用方法を探ったり学習内容や学習形態などを工夫したりしていく必要がある。また、取材・編集・発表・交流など様々な活動や経験は子どもたちの力を伸ばしていくが、子どもたちの主体的に物事に取り組む態度や自ら課題を発見し方法を考えながら課題を解決していくような高度な力は、このような学習・経験を着実に積み重ねていくことでしか身につかないものである。そのためにそれぞれの学年でどのような学びが必要か、これからも考えていきたい。

7. おわりに

パナマには、パナマ人だけでなく、コロンビア、ベネズエラ、中国、アメリカ…などたくさんの人たちが暮らしていて、世界とつながっているような感覚を日々覚える。パナマで暮らし、学んでいるから味わえるこの感覚を忘れないでほしいと思う。日本人学校の子どもたちが大きくなった時、ここでの生活・学習の経験や感じたことなどをもとに、パナマと日本のみではなく、たくさんの国々や人々を結ぶPUENTE(懸け橋)となってほしいと思う。